

# 貧血のお話

小金井中央病院  
内科医 畑野 かおる

## 【貧血とは】

血液には白血球、赤血球、血小板という細胞成分があります。このうち赤血球は体中に酸素を運搬していますが、この赤血球が減った状態が貧血です。

## 【貧血の症状】

貧血になると、酸素不足により顔面蒼白、倦怠感、易疲労感、食欲不振、めまい、傾眠、頭痛、集中力低下などがみられます。また体が酸素不足を補おうとするために、動悸、頻脈、頻呼吸、息切れをきたします。他にも、貧血の原因に応じて様々な症状を呈します。



貧血が少しずつ進行した場合には、高度の貧血になるまで症状が出にくく、要注意です。

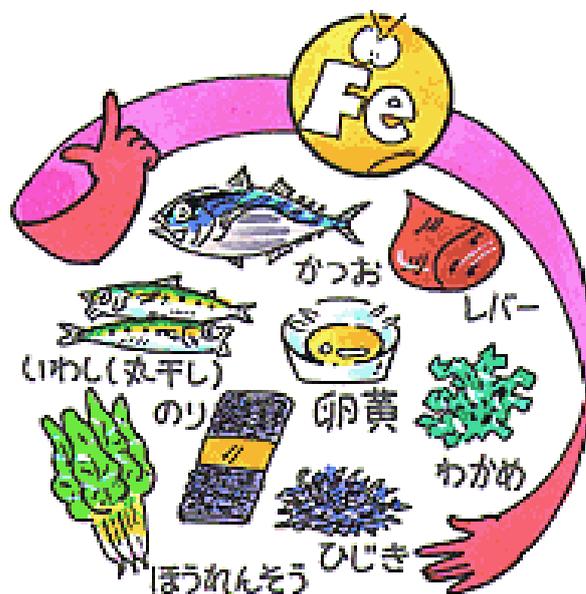
## 【貧血の原因】

大きく分けて、①赤血球産生障害、②溶血（赤血球が破壊されること。通常は黄疸を伴います）、③出血、があります。このうち①赤血球産生障害には、造血因子（鉄、ビタミン B12、葉酸など）の欠乏、骨髄造血障害（再生不良性貧血や白血病など）、免疫異常、内分泌障害（甲状腺機能低下、エリスロポエチン分泌障害など）が含まれます。

以上のなかから、鉄欠乏とビタミン B12 欠乏について、ご紹介いたします。

## 【鉄欠乏性貧血】

鉄欠乏の原因としては、①偏食による鉄分摂取不足、②成長期や妊娠・授乳などによる鉄需要量の増加、③慢性出血による鉄喪失量の増加、④消化管での鉄吸収障害、が挙げられます。なかでも③慢性出血には注意が必要で、消化性潰瘍や痔、また女性の場合は子宮筋腫や子宮内膜症が原因となる場合があります。鉄欠乏性貧血と診断された場合は、原因疾患を調べて治療することが大切です。なお鉄欠乏性貧血に比較的良くある症状として、爪の変形、嚥下障害、異食症（氷などを異常に欲しがる）などがあります。貧血の改善には鉄剤が有効です。薬の服用により便が黒くなります。また副作用として悪心、嘔吐、便秘、下痢、腹痛などが起こることがありますので、医師または薬剤師へ御相談下さい。鉄分を多く含む食品（赤身肉、海藻、赤身魚、貝、卵、豆類、緑黄色野菜など）を摂るようにしてください。



## 【ビタミンB12欠乏による貧血】

ビタミンB12欠乏の大部分は、①悪性貧血または②胃切除後によるものです。ビタミンB12は、胃壁細胞から分泌される内因子によって、腸管から吸収されています。①悪性貧血は高齢者に多く、高度の委縮性胃炎に伴う内因子分泌不全によって、ビタミンB12の腸管からの吸収が低下してしまいます。②胃切除後の場合も同様に、内因子が分泌されないためにビタミンB12吸収障害が起こり、さらに鉄欠乏性貧血を合併することもあります。ビタミンB12欠乏では、舌痛や神経症状（知覚障害、歩行障害など）がみられることがあります。治療は注射によるビタミンB12の補充で、生涯にわたり続ける必要があります。

## ジェネリック医薬品について

小金井中央病院  
薬局長 庭田 昇

ジェネリック医薬品（後発医薬品）については、テレビや新聞でコマーシャルされるようになり、多くの方がご存知だと思います。『効能・効果が先発医薬品と同じで値段が安い』、『かかりつけ医や調剤薬局で“ジェネリック医薬品をお願いします”と言えば処方してもらえる』などと報道されていますが、本当にそのとおりなのでしょうか？

今回は、このジェネリック医薬品についてお話ししたいと思います。

### 【先発医薬品とジェネリック医薬品（後発医薬品）】

先発医薬品とは、10数年の歳月と数百億もの費用をかけて開発された新薬のことです。この先発医薬品の特許期間の満了後には、他のメーカーも同じ有効成分、同じ効能・効果をもつ医薬品を製造することができるようになります。これがジェネリック医薬品（後発医薬品）です。値段は特許満了直後の発売では、先発医薬品の7割程度に設定されており、その後は市場調査により2年ごとに値段が変更されます。平均すると先発医薬品の約半額程度とされています。

### 【ジェネリック医薬品はなぜ安いのか？】

ジェネリック医薬品の開発期間は3～5年と短く、研究開発費が安く抑えられていることから、先発医薬品に比べて値段が低くなっています。

### 【安いのは良いけど有効性と安全性は？】

先発医薬品は、特許期間が満了するまでに多くの患者様に使用され、その成分の有効性や安全性は確認されています。また、1998年より「品質再評価」が実施され、品質管理はより厳しくなっています。



## 【どのくらい普及しているの？】

欧米では医薬品の約80%にジェネリック医薬品が存在するほど、ジェネリック医薬品は普及しています。2006年の少し古いデータですが、アメリカ、イギリス、ドイツではジェネリック医薬品が全体の約50%を超えているのに対し、日本は20%にも満たないのが現状です。

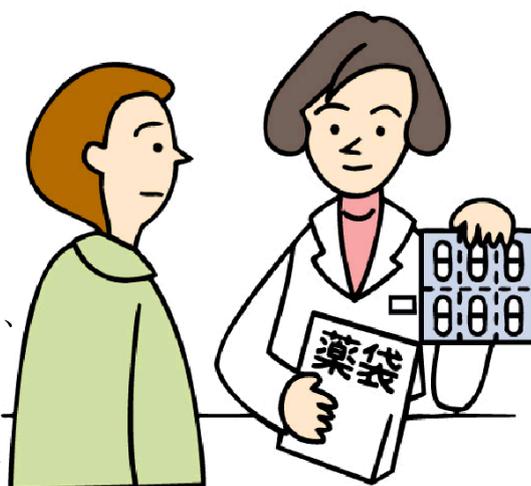
## 【ジェネリック医薬品はどうしたら処方してもらえるの？】

まずは、かかりつけ医や保険調剤薬局の薬剤師に相談してください。

2008年4月より処方箋の様式が変更になり、「変更不可」の医師の署名がなければ、保険調剤薬局の薬剤師と相談の上、患者様が薬を選ぶことができるようになりました。

今回はジェネリック医薬品についてお話ししました。医療費削減は避けて通れない国民全体の課題です。この医療費削減という課題に、ジェネリック医薬品の普及は大きな効果をもたらす可能性をもっています。

しかしながら、1つの先発医薬品に対し複数のジェネリック医薬品が販売され、添加物や製剤によっては、大きさや味・匂い、保存性など、各メーカーごとの違いや特徴が生じてしまう場合もあります。また納期にバラツキがあったり、緊急発注に対応できない等、供給に違いがある場合もあります。



今後、更にジェネリック医薬品を推進していくには、私達薬剤師が薬のプロフェッショナルとして良質なジェネリック医薬品を選択し、患者様に提供することが責務だと考えます。

**ジェネリック医薬品をご希望の場合は、かかりつけ医や  
保険調剤薬局の薬剤師に相談してください**